

(様式第 10)

医板病公発第 102 号  
平成 27 年 10 月 5 日

厚生労働大臣

殿

管理者名 病院長 平山 篤志 (印)

日本大学医学部附属板橋病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒102-8275 東京都千代田区九段南四丁目8番24号
氏 名	学校法人日本大学 理事長 田中英壽

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

日本大学医学部附属板橋病院
---------------

3 所在の場所

〒173-8610 東京都板橋区大谷口上町30番1号	電話( 03 ) 3972 - 8111
-------------------------------	----------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
---

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	① ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 血液内科 2 腎臓・内分泌内科 3 糖尿病・代謝内科 4 循環器内科 5 呼吸器内科 6 消化器・肝臓内科 7 神経内科 8 心療内科 9 小児内科 10 新生児内科 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有 ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 心臓外科 3 血管外科 4 小児外科 5 呼吸器外科 6 乳腺・内分泌外科 7 形成外科 8 疼痛緩和外科 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 2小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 8産科 9婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 13放射線診断科 14放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科
---

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科 2 リハビリテーション科 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21
---

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43床	0床	12床	0床	982床	1,037床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年9月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	465人	83.6人	548.6人	看護補助者	41人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	7人	2.6人	9.6人	理学療法士	14人	臨床検査技師	92人
薬 剤 師	72人	0.2人	73人	作業療法士	2人	衛生検査技師	0人
保 健 師	85人	0人	85人	視能訓練士	6人	その他	0人
助産師	40人	0人	40人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	1人
看護師	865人	9.3人	874.3人	臨床工学士	24人	医療社会事業従事者	0人
准看護師	3人	0人	3人	栄 養 士	2人	その他の技術員	5人
歯科衛生士	3人	0人	3人	歯科技工士	1人	事務職員	87人
管理栄養士	10人	0人	10人	診療放射線技師	69人	その他の職員	18人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年9月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	27人	眼科専門医	14人
外科専門医	33人	耳鼻咽喉科専門医	12人
精神科専門医	13人	放射線科専門医	10人
小児科専門医	42人	脳神経外科専門医	16人
皮膚科専門医	7人	整形外科専門医	18人
泌尿器科専門医	8人	麻酔科専門医	16人
産婦人科専門医	18人	救急科専門医	9人
		合 計	243人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	890.7人	7.8人	898.5人
1日当たり平均外来患者数	2048.3人	61.0人	2109.3人
1日当たり平均調剤数	外来分	41.1 剤	入院分 868.8剤
必要医師数			213.75人
必要歯科医師数			7人
必要薬剤師数			29.95人
必要(准)看護師数			519.56人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

## 9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	1027.387 m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	病床数	53床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 53.77m <sup>2</sup> [移動式の場合] 台数 15台		病床数	4床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 21.22 m <sup>2</sup> [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	416.34m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析機 Labospect008, 免疫科学自動分析機 Cobas8000			
細菌検査室	107.44m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 感受性分析装置 ライフ スコー, 血液培養装置 Bactec			
病理検査室	135.48m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動固定包装装置, 自動染色装置, クリオスタット, パーチャルスライド機			
病理解剖室	82.73m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) 解剖台3台, (L型昇降式1第含), パーソナルプロテクションシステム3セット			
研究室	27.28m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	(主な設備) パソコン, 顕微鏡, 電子カルテ			
講義室	194.27m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	4室	収容定員	125人
図書室	1015.10m <sup>2</sup>	鉄筋コンクリート	室数	2室	蔵書数	204,883冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。  
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

## 10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	77.1%	逆紹介率	58.5%
算出根拠	A: 紹介患者の数	23,859人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	21,329人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	4,267人	
	D: 初診の患者の数	36,442人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。





(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 3 その他の高度の医療

医療技術名	高齢者変性後側弯症に対する矯正固定術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 70歳以上の高齢者の脊柱変形に対し、骨切り術を含む矯正固定を行う手術で長時間の手術と慎重な周術期管理を要する。			
医療技術名	低侵襲多椎間脊椎固定術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 転移性脊椎腫瘍や多発外傷、重度脊椎感染症に対してダメージコントロールに配慮した経皮的椎弓根スクリュー固定術で集学的治療を要する。			
医療技術名	感染人工関節に対する再置換術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 人工関節置換術後の感染に対する抗生剤入りセメント			
医療技術名	腹腔鏡下腎(尿管)悪性腫瘍手術	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍に対する腹腔きゅおか手術			
医療技術名	腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腎盂尿管移行部狭窄症に対する腹腔鏡下手術			
医療技術名	腹腔鏡下後腹膜リンパ節郭清術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 後腹膜リンパ節郭清を腹腔鏡下に行う手術			
医療技術名	腹腔鏡下副腎摘除術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 副腎腫瘍に対する腹腔鏡下手術			
医療技術名	経尿道的前立腺核出術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 前立腺肥大症(大きさによらない)に対するTURisシステムを利用した前立腺核出術			
医療技術名	腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要 ミニマル創による前立腺癌に対する全摘手術			
医療技術名	密封小線源療法	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要 限局性前立腺癌に対する放射線療法(内照射)			
医療技術名	膀胱脱手術(メッシュを使用するもの)	取扱患者数	46人
当該医療技術の概要 骨盤臓器脱に対するメッシュを使用して経膈的手術			

医療技術名	MENI遺伝子学的検査	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 多発性内分泌腫瘍(MENI)の遺伝子が鶴的検査を塩基配列決定法にて実施			
医療技術名	深部刺激療法	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 不随運動(パーキンソン病, ジストニア, 本能的振戦など)や難治性疼痛などに対する外科的治療			
医療技術名	人工呼吸管理(小児)	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 上気道狭窄や無呼吸発作, 酸素化・換気不全に対して呼吸を人工的に補助する			
医療技術名	観血的動脈圧持続モニタリング	取扱患者数	45人
当該医療技術の概要 動脈内へカテーテルを留置し, 血圧の持続モニタリングや動脈採血を容易にする			
医療技術名	急性期血液浄化療法(小児)	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 血漿交換, エンドトキシン吸着, 持続血液透析濾過等により有害物質を除去する			
医療技術名	観血的頭蓋内圧モニタリング(小児)	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 頭蓋内出血等による頭蓋内圧上昇例に対し脳灌流圧を推定する目的で使用する 頭蓋内出血等脳ヘルニアの要因となる因子のドレナージ(体外排泄)も行える			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	65人	・膿疱性乾癬	17人
・多発性硬化症	73人	・広範脊柱管狭窄症	2人
・重症筋無力症	119人	・原発性胆汁性肝硬変	141人
・全身性エリテマトーデス	368人	・重症急性膵炎	6人
・スモン	2人	・特発性大腿骨頭壊死症	17人
・再生不良性貧血	55人	・混合性結合組織病	55人
・サルコイドーシス	111人	・原発性免疫不全症候群	8人
・筋萎縮性側索硬化症	6人	・特発性間質性肺炎	42人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	254人	・網膜色素変性症	50人
・特発性血小板減少性紫斑病	156人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	23人	・肺動脈性肺高血圧症	2人
・潰瘍性大腸炎	364人	・神経線維腫症	5人
・大動脈炎症候群	24人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	27人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	92人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	51人	・ライソゾーム病	1人
・クローン病	60人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	13人	・脊髄性筋萎縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	451人	・球脊髄性筋萎縮症	2人
・アミロイドーシス	8人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	8人
・後縦靭帯骨化症	107人	・肥大型心筋症	105人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	34人	・ミトコンドリア病	7人
・ウェゲナー肉芽腫症	9人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	16人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	5人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	2人	・黄色靭帯骨化症	12人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	161人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料(一般病棟7:1入院基本料, 結核病棟7:1入院基本料, 精神病棟15:1入院基本料(看護補助加算3))	・救命救急入院料4
・入院時食事療養(I)	・特定集中治療室管理料3
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・総合周産期特定集中治療室管理料
・歯科外来診療環境体制加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・歯科診療特別対応連携加算	・小児入院医療管理料1
・臨床研修病院入院診療加算	・
・救急医療管理加算	・
・超急性期脳卒中加算	・
・妊産婦緊急搬送入院加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・急性期看護補助体制加算50:1	・
・看護補助加算3	・
・無菌治療室管理加算1	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊婦管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・救急搬送患者地域連携紹介加算	・
・救急搬送患者地域連携受入加算	・
・総合評価加算	・
・データ提出加算2	・

(様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

### 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	・胎児心エコー法
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料1・2	・皮下連続式グルコース測定
・外来緩和ケア管理料	・神経学的検査
・移植後患者指導管理料(臓器胞移植・造血幹細胞移植)	・補聴器適合検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・コンタクトレンズ検査料1
・小児科外来診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・院内トリアージ実施料	・内服・点滴誘発試験
・外来放射線照射診療料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・ニコチン依存症管理料	・画像診断管理加算1
・地域連携診療計画管理料(脳卒中・大腿骨)	・遠隔画像診断
・地域連携診療計画退院時指導料(Ⅰ)	・CT撮影及びMRI撮影
・地域連携診療計画退院時指導料(Ⅱ)	・冠動脈CT撮影加算
・がん治療連携計画策定料	・心臓MRI撮影加算
・がん治療連携指導料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・がん治療連携管理料	・外来化学療法加算1
・肝炎インターフェロン治療計画料	・無菌製剤処理料
・薬剤管理指導料	・脳血管疾患等リハビリテーション料Ⅱ
・医療機器安全管理料1・2	・運動器リハビリテーション料Ⅰ
・歯科治療総合医療管理料	・呼吸器リハビリテーション料Ⅰ
・造血器腫瘍遺伝子検査	・がん患者リハビリテーション料
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・集団コミュニケーション療法料
・検体検査管理加算(Ⅰ)・(Ⅳ)	・歯科口腔リハビリテーション料2
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・認知療法・認知行動療法2
・植込型心電図検査	・精神科ショート・ケア「小規模なもの」
・時間内歩行試験	・精神科デイ・ケア「小規模なもの」

## (様式第2)

## 高度の医療の提供の実績

## 6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
・医療保護入院等診療料	・補助人工心臓
・エタノール局所注入(甲状腺に対するもの)	・植込型補助人工心臓(拍動流型)
・エタノール局所注入(副甲状腺に対するもの)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・透析液水質確保加算2	・経皮的動脈遮断術
・一酸化窒素吸入療法	・ダメージコントロール手術
・歯科技工加算	・腹腔鏡下肝切除術
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・生体部分肝移植術
・組織拡張期による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術, 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの)	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術, 腹腔鏡下小切開腎摘出術, 腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・生体腎移植術
・網膜再建術	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工内耳植込術, 植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・乳がんセンチネルリンパ節加算1・2	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)
・経皮的冠動脈形成術	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術, 腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・経皮的中隔心筋焼灼術	・輸血管理料 I
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・自己生体組織接着剤作成術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・植込型除細動器移植術, 植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・麻酔管理料 I・II





(様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

### 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
ニューロモデュレーションセンターの構築と医療連携	亀井 聡	神経内科	1,000,000	補委 文部科学省私立大学戦力的研究基盤形成支援事業
日本脳炎並びに予防接種後を含む急性脳炎・脳症の実態・病因解明に関する研究	亀井 聡	神経内科	1,550,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
東京都・関東甲信地区におけるスモン患者の現状調査及び取りまとめ	亀井 聡	神経内科	1,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
グルカゴン分泌制御機構とその糖尿病薬による修飾メカニズムの解明	石原 壽光	糖尿病・代謝内科	1,560,000	補委 日本学術振興会科研費
高機能ポータブル心肺補助装置の実用化開発	塩野 元美	心臓外科	2,000,000	補委 NEDO
遺伝子選択的発現抑制剤ポリアミドを用いた悪性骨軟部腫瘍治療薬の開発	吉田 行弘	整形外科	1,170,000	補委 文部科学省科学研究費補助金
骨肉腫におけるmiR-1の発現とその機能の解明	吉田 行弘	整形外科	1,000,000	補委 整形災害外科学研究助成財団
高悪性度軟部腫瘍に対する標準的な治療法に関する研究	吉田 行弘	整形外科	150,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
ポルフィリン化合物の放射線増感効果を利用した骨肉腫療法の実用化	吉田 行弘	整形外科	3,000,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
がん研究分野の特性等を踏まえた支援活動	高橋 悟	泌尿器科	700,000	補委 文部科学省新学術領域研究
前立腺癌における融合遺伝子とアンドロゲン応答機構の解析	高橋 悟	泌尿器科	1,100,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
ゲノム科学に基づく先進医療開発研究拠点	高橋 悟	泌尿器科	1,000,000	補委 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
低用量BCG膀胱内注入維持療法の再発予防効果ならびに安全性に関するランダム化比較試験	高橋 悟	泌尿器科	300,000	補委 日本医療研究開発機構研究費
包括型脳科学研究推進支援ネットワーク	阿部 修	放射線科	1,800,000	補委 日本学術振興会科研費
PIポリアミドによる核DNAをターゲットにした新たな放射線増感剤の開発	石橋 直也	放射線科	1,200,000	補委 日本学術振興会科研費
ボトムアッププロテオミクスを応用した多因子遺伝性疾患感受性遺伝子検出	中山 智祥	臨床検査医学科	1,100,000	補委 学術振興会科研費
CCTQ日本語版の開発と子どもの朝型-夜型に関する研究	内山 真	精神神経科	500,000	補委 日本学術振興会科研費
睡眠相後退型概日リズム睡眠障害に対する統合的時間生物学治療法の実用化	内山 真	精神神経科	1,500,000	補委 日本学術振興会科研費
健康日本21(第2次)に則した睡眠指針への改訂に資するための疫学研究	内山 真	精神神経科	300,000	補委 厚生労働省科学研究費補助金
難治性うつ病に対する在宅覚醒療法の実用化に関する研究	鈴木正泰	精神神経科	600,000	補委 日本学術振興会科研費
プラズマによる腫瘍特異的細胞死の誘導機序に関する研究	相馬 正義	総合科(内科)	1,690,000	補委 科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金)(基盤研究(C)(一般))
ゲノム化学に基づく先進医療開発研究拠点	相馬 正義	総合科(内科)	13,400,000	補委 文科省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
本邦ではまれな肝細胞腺腫の疫学調査、および臨床病理学的、免疫・分子病理学的研究	杉谷 雅彦	病理診断科	1,500,000	補委 文部科学省化学研究費 基盤研究(C)
「KPCマウスを用いた膵癌微小環境を標的とした新薬の同定」	佐野 誠	病理診断科	2,210,000	補委 文部科学省化学研究費 基盤研究(C)

独創的3次元血管内イメージング流体解析による急性冠症候群発症機序解明と治療法開発	廣 高史	循環器内科	1,600,000	補委	科学研究費
GLP-1受容体作動薬によるブランク安定化の継続的評価と機序の解明	平山 篤志	循環器内科	1,100,000	補委	科学研究費
酸化ストレスによる不整脈基盤形成の機序解明とSema3Aによる電気的心筋再生療法	黒川 早矢香	循環器内科	500,000	補委	科学研究費
超出生体重児における消化管疾患の発症メカニズム解明と新規治療法の開発	大橋 研介	小児外科	1,500,000	補委	文部科学省科学研究費
マウス各発達段階組織を用いたヒト小児肝腫瘍、腎腫瘍における腫瘍関連遺伝子の検討	杉藤 公信	小児外科	1,700,000	補委	文部科学省科学研究費
腫瘍特異的遺伝子の解析によるヒト腎芽腫およびヒト肝芽腫の新規腫瘍関連遺伝子の探索	越永 従道	小児外科	90,000	補委	文部科学省科学研究費
転移性肝芽腫に対する薬剤開発戦略としての国際共同臨床試験	越永 従道	小児外科	1,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
難治性小児悪性固形腫瘍における診断バイオマーカーの同定と新規治療法の開発に関する研究	越永 従道	小児外科	4,500,000	補委	厚生労働省科学研究費
分子レベルで小児悪性固形腫瘍の安全性を治療後QOLの向上への新たな標準治療法開発のための多施設共同臨床試験	越永 従道	小児外科	3,000,000	補委	厚生労働省科学研究費
低出生体重児消化管機能障害の疾患概念確立に向けた疫学調査研究	大橋 研介	小児外科	50,000	補委	厚生労働省科学研究費
ゲノム科学に基づく先進医療開発研究拠点	越永 従道	小児外科	1,000,000	補委	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業
脳卒中後疼痛に対する脊髄刺激によるニューロモデュレーション	山本隆充	脳神経外科	4,550,000	補委	科学研究費助成事業 基盤研究(C)
パーキンソン病に対する脳深部刺激療法と薬物療法を融合した適正な治療戦略の検討	深谷 親	脳神経外科	3,120,000	補委	科学研究費助成事業 基盤研究(C)
Adolescent and young adult (AYA) 世代に及ぶ骨・軟部肉腫ならびに固形がんに対する晩期合併症に考慮したデータ収集と治療開発に関する研究	陳 基明	小児科	1,100,000	補委	厚生労働省科学研究費
早産児における自己臍帯血輸血による新たな神経学的後障害予防戦略	細野 茂春	小児科	1,200,000	補委	文部科学省科学研究費
妊娠時インフルエンザウイルス感染による胎児および母体に対する影響	春日 晃子	産婦人科	1,820,000	補委	厚生労働省科学研究費
妊娠高血圧腎症胎盤における血管増殖因子および低酸素応答分子の発現	山本 樹生	産婦人科	650,000	補委	厚生労働省科学研究費

計 41 件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを入力すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## (様式第3)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

## (1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	松岡 俊一	消化器・肝臓内科	Improvement in the Nutritional Status and Clinical Conditions of Patients with Liver Failure Using a Liver Diet Combined with a Branched Chain Amino Acids-enriched Elemental Diet.	Hepato-Gastroenterology;61(133):pp.1308-1312,2014
2	松岡 俊一	消化器・肝臓内科	Usefulness of Balloon-occluded Retrograde Transvenous Obliteration for Gastric Varices concurrent with Hepatocellular Carcinoma.	Hepato-Gastroenterology;61(136):pp.2301-2304,2014
3	楡井 和重	消化器・肝臓内科	Incidence of Hepatocellular Carcinoma Reduced by Phlebotomy Treatment in Patients with Chronic Hepatitis C.	Internal Medicine;54(2):pp.107-117,2015
4	Morita A	神経内科	Open-label study the pharmacodynamics clinical efficacy and safety of meropenem for adult bacterial meningitis in Japan.	Journal of Infection and Chemotherapy ;20(9):535-40,2014
5	Teramoto H	神経内科	Relation between freezing of gait and frontal function in Parkinson's disease.	Parkinsonism and Related;20(10):1046-9,2014
6	Yuichiro Otsuka	糖尿病・代謝内科	Addition of sitagliptin of metformin to insulin monotherapy improves blood glucose control different effect on insulin and glucagon secretion in hyperglycemic Japanese patients with type 2 diabetes.	Endocrine Journal.62(2),133-143(2015)
7	Sakimoto T,Ohnishi T,Ishimori A	眼科	Simultaneous study of matrix metalloproteinases, pro-inflammatory cytokines and soluble cytokine receptors in the tears of non-infectious ulcer patients.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 252(9):1451-1456,2014
8	Inada N,Ishimori A,Shoji J	眼科	CC120/MIP-3 alpha mRNA expression in the conjunctival epithelium of normal individuals and patients with vernal keratoconjunctivitis.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol 252(12):1977-1456,2014
9	Sakimoto T,Ohnishi T,Ishimori A	眼科	Significance of ectodomain shedding of tumor necrosis factor receptor 1 in ocular surface.	Invest Ophthalmol Vis Sci,55(4):2419-2423,2014
10	秦 光賢	心臓外科	Optimal treatment strategy for type A acute aortic dissection with intramural hematoma.	Journal of thoracic and Cardiovascular Surgery,147(1):307-311,2014
11	瀬在 明	心臓外科	Early Results of Human Atrial Natriuretic Peptide Infusion in Non-Dialysis Patients with Chronic Kidney Disease Undergoing Isolated Coronary Artery Bypass Grafting: the NU-HIT Trial for CKD-II.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery,20(3):217-222,2014
12	瀬在 明	心臓外科	The Role of $\beta$ -Blockers in Cardiac Perioperative Management.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery,20(4):261-266,2014
13	飯田 充	心臓外科	Emergency Coronary Artery Bypass Grafting after Substernal Gastric Tube Interposition for Esophageal Cancer.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery,20(suppl):751-757,2014
14	秦 光賢	心臓外科	Screening and management for ischemic heart disease in patients undergoing emergency surgery for a type A acute aortic dissection.	Surgery Today,44(9):1669-1673,2014
15	秦 光賢	心臓外科	Case of sudden death from retrograde type a dissection two days after surgery for a type B dissecting aneurysm.	Annals of Thoracic and Cardiovascular Surgery,20(Suppl.):915-917,2014
16	大幸 英至	整形外科	MicroRNA-1(miR-1)Inhibits Chordoma Cell Migration and Invasion By Targeting Slug	Journal of Orthopaedic Research,32(8):1075-1082,2014
17	徳橋 泰明	整形外科	Scoring system for prediction of metastatic spine tumor prognosis.	World journal of orthopedics,5(3):262-271,2014
18	Obinata Daisuke	泌尿器科	Lower urinary tract symptoms in female patients with pelvic organ prolapse: efficacy of pelvic floor reconstruction.	Int J Urol,21(3):301-307,2014

19	Kanda Takayoshi	泌尿器科	Case of mumps orchitis after vaccination.	Int J Urol,21(4):426-428,2014
20	Shizukuishi T	放射線科	Granular cell tumor of the neurohypophysis with optic tract edema.	Jpa J Radiol ,35:1976-82
21	Yamada H	放射線科	Efficacy of distortion correction on diffusion imaging: comparison of FSL eddy and eddy_correct using 30 and60 directions diffusion encoding.	Plos One,9,e112411,2014
22	Ishibashi N	放射線科	Myelosuppression toxicity of palliative splenic irradiation in myelofibrosis and malignant lymphoma.	Hematology,20,203-7,2014
23	Ishibashi N	放射線科	Hypothyroidism after radiotherapy for primary throid lymphoma.	Anticancer Res,4,4427-31,2014
24	里村 厚司	臨床検査医学科	Comment on 'p.E66Q mutation in the GLA gene is associated with a high risk of cerebral small-vessel occlusion in elderly Japanese males'.	European journal of neurology Aug;21(8):e62, 2014
25	中山 智祥	臨床検査医学科	Associations of complement factor B and complement component 2 genotypes with subtypes of polypoidal choroidal vasculopathy.	BMC Ophthalmology 14:83, 2014
26	中山 智祥	臨床検査医学科	Study of a newly developed high-performance liquid chromatography analyser for glycosylated haemoglobin measurements in blood containing haemoglobin variants in the Japanese population.	Annals of Clinical Biochemistry 51(Pt 5):591-601, 2014
27	荒島 康友	臨床検査医学科	The first case in Japan of a patient developing chronic fatigue syndrome after treatment for bronchial asthma arising from Coxiella burnetii infection.	International Medical Journal 21(6): 552-553, 2014
28	中山 智祥	臨床検査医学科	Japanese neonate with congenital chloride diarrhea caused by SLC26A3 mutation.	Pediatrics international Pediatr Int. 57(1):e11-13,2015
29	中山 智祥	臨床検査医学科	Progress and Issues of the Genome-Wide Association Study for Hypertension.	Curr Med Chem 22(8), 1016-1029, 2015
30	Takahashi S	精神神経科	Case history and genome-wide scans for copy number variants in a family with patient having 15q11.1-q11.2 duplication and 22q11.2 deletion, and schizophrenia.	Am J Med Genet B Neuropsychiatr Genet,168B (4) :229-35, 2015
31	Furihata R	精神神経科	Association of short sleep duration and short time in bed with depression: A Japanese general population survey.	Sleep and Biological Rhythms,Volume 13, Issue 2, pages 136-145, 2015
32	Suzuki M	精神神経科	Abdominal paresthesia resembling restless legs syndrome successfully treated with iron supplement therapy: A case report.	J Neurol Sci,Volume 336, Issues 1-2, Pages 291-292,2014
33	Takahashi S	精神神経科	One-year follow-up study of psychotic patients treated with blonanserin: a case series.	Asia Pac Psychiatry;5(3):164-7
34	Takahashi S	精神神経科	A case of schizophrenia with meige syndrome induced by perospirone successfully treated with biperiden.	J Neuropsychiatry Clin Neurosci;25(1):E28.
35	Furihata R	精神神経科	The association between sleep problems and perceived health status: A Japanese nationwide general population survey.	Sleep Medicine;13(7):831-7
36	Suzuki M	精神神経科	Relationships between exploratory eye movement dysfunction and clinical symptoms in schizophrenia.	Psychiatry Clin Neurosci;66(3):187-94.
37	Uchiyama M	精神神経科	Clinical significance and management of insomnia.	Sleep and Biological Rhythms;Volume 9, Issue 2, pages 63-72
38	Furihata R	精神神経科	Self-help behaviors for sleep and depression: A Japanese nationwide general population survey	J Affect Disord;130(1-2):75-82
39	Uchiyama M	精神神経科	Long-term safety and efficacy of ramelteon in Japanese patients with chronicinsomnia	Sleep Med;12(2):127-33.
40	Uchiyama M	精神神経科	Evaluation of subjective efficacy and safety of ramelteon in Japanese subjects with chronic insomnia	Sleep Med;12(2):119-26.
41	Suzuki M	精神神経科	Hidden harm	Lancet;5;377(9768):874.
42	Uchiyama M	精神神経科	Non-24-hour sleep-wake syndrome in sighted and blind patients	Sleep Med Clin;Volume 4, Issue 2, Pages 195-211
43	Suzuki M	精神神経科	Exploratory eye movement dysfunction as a discriminator for schizophrenia : A large sample study using a newly developed digital computerized system	Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci;259(3):186-94.
44	Uchiyama M	精神神経科	Preface	Sleep and Biological Rhythms;Volume 6, Issue 3, page 127
45	Takahashi S	精神神経科	Association of SNPs and haplotypes in APOL1, 2 and 4 with schizophrenia	Schizophr Res;;104(1-3):153-64.
46	加藤 公敏	総合科(内科)	Adjunct antibiotic combination therapy for steroid-refractory or -dependent ulcerative colitis: an open-label multicenter stud	Aliment Pharmacol Ther. 2014 May;39(9):949-56.
47	相馬 正義	総合科(内科)	Secondary focal segmental glomerulosclerosis in an adolescent born with a very low birth weight.	Internal Medicine Vol. 53 (2014) No. 19 p. 2233-2236
48	相馬 正義	総合科(内科)	Diminished complement-activating capacity through the classical pathway in sera from type 2 diabetes mellitus.	Immunol Invest. 2014;43(2):170-81
49	相馬 正義	総合科(内科)	Inhibition of malignant phenotypes of human osteosarcoma cells by a gene silencer, a pyrrole-imidazole polyamide, which targets an E-box motif	FEBS Open Bio. 2014; 4: 328-334.
50	相馬 正義	総合科(内科)	Role of complement 3a in the growth of mesangial cells from stroke-prone spontaneously hypertensive rats.	Clin Exp Hypertens. 2014;36(1):58-63.

51	相馬 正義	総合科(内科)	Inhibition of Human Osteosarcoma Cell Migration and Invasion by a Gene Silencer, Pyrrole-Imidazole Polyamide, Targeted at the Human MMP9 NF- $\kappa$ B Binding Site.	Biol Pharm Bull. 2014;37(9):1460-5.
52	相馬 正義	総合科(内科)	A novel gene regulator, pyrrole-imidazole polyamide targeting ABCA1 gene increases cholesterol efflux from macrophages and plasma HDL concentration.	J Mol Med (Berl). 2014 May;92(5):509-21
53	相馬 正義	総合科(内科)	Nr4a3, a possible oncogenic factor for neuroblastoma associated with CpG methylation within the third exon.	Int J Oncol. 2014 May;44(5):1669-77.
54	相馬 正義	総合科(内科)	Effects of an angiotensin II receptor blocker on the impaired function of endothelial progenitor cells in patients with essential hypertension.	Am J Hypertens. 2014 May;27(5):695-701.
55	相馬 正義	総合科(内科)	Effects of the N/L-Type Calcium Channel Blocker Cilnidipine on Nephropathy and Uric Acid Metabolism in Hypertensive Patients With Chronic Kidney Disease (J-CIRCLE Study).	J Clin Hypertens (Greenwich). 2014 Oct;16(10):746-53.
56	相馬 正義	総合科(内科)	Pyrrole-imidazole polyamide targeted to break fusion sites in TMPRSS2 and ERG gene fusion represses prostate tumor growth.	Cancer Sci. 2014 Oct;105(10):1272-8.
57	相馬 正義	総合科(内科)	Pneumatosis cystoides intestinalis and hepatic portal venous gas on peritoneal dialysis.	Clin Nephrol. 2014 Nov;82(5):347-50.
58	相馬 正義	総合科(内科)	Effects of levocarnitine on brachial-ankle pulse wave velocity in hemodialysis patients: a randomized controlled trial.	Nutrients. 2014 Dec 22;6(12):5992-6004
59	相馬 正義	総合科(内科)	Preclinical Study of Novel Gene Silencer Pyrrole-Imidazole Polyamide Targeting Human TGF- $\beta$ 1 Promoter for Hypertrophic Scars in a Common Marmoset Primate Model.	PLoS One. 2015 May 4;10(5)
60	相馬 正義	総合科(内科)	Imbalance of interleukin-18 and interleukin-18 binding protein in patients with IgA nephropathy implicating renal vasculopathy.	Clin Lab. 2015;61(1-2):23-30.
61	相馬 正義	総合科(内科)	Genome-wide screening of aberrant DNA methylation which associated with gene expression in mouse skin cancers.	Mol Carcinog. 2015 Mar;54(3):178-88.
62	相馬 正義	総合科(内科)	Urinary angiotensin-converting enzyme 2 increases in diabetic nephropathy by angiotensin II type 1 receptor blocker olmesartan.	J Renin Angiotensin Aldosterone Syst. 2015 Mar;16(1):159-64.
63	佐野 誠	病理診断科	Activated Wnt signaling in the stroma underlies the development of pancreatic mucinous cystic neoplasms.	Gastroenterology, 146(1):257-67,2014. (IF: 12.852)
64	佐野 誠	病理診断科	Clinicopathological characteristics of anaplastic carcinoma of the pancreas with rhabdoid features.	Virchows Archiv, 465(5):531-8. 2014. (IF: 2.676)
65	根本 則道	病理診断科	Clinicopathological characteristics of anaplastic carcinoma of the pancreas with rhabdoid features.	Virchows Archiv, 2014, accepted.
66	杉谷 雅彦	病理診断科	Safety and efficacy of high-dose cyclophosphamide, etoposide and ranimustine regimen followed by autologous peripheral blood stem cell transplant for patients with diffuse large B-cell lymphoma.	Leuk Lymphoma. 2014 Nov;55(11):2514-9
67	杉谷 雅彦	病理診断科	Granular cell tumor of the neurohypophysis with optic tract edema. Jpn	J Radiol 2014 Mar;32(3):179-82
68	杉谷 雅彦	病理診断科	Case of accidentally discovered splenic epidermoid cyst with serum CA19-9 elevation.	J Gastroenterol Hepatol. 2014 Feb;29(2):231
69	大荷 澄江	病理診断科	Expressions of Somatostatin Receptor Subtypes (SSTR-1, 2, 3, 4 and 5) in Neuroblastic Tumors; Special Reference to Clinicopathological Correlations with International Neuroblastoma Pathology Classification and Outcomes.	ACTA HISTOCHEM CYTOCHEM 2014;47(5):219-229
70	本間 琢	病理診断科	Clinicopathological characteristics of anaplastic carcinoma of the pancreas with rhabdoid features.	Virchows Arch. 2014;465(5):531-538
71	Fujisawa D	皮膚科	Expression of Mas-related gene X2 on mast cells is upregulated in the skin of patients with severe chronic urticaria.	J Allergy Clin Immunol 2014; 134(9): 622-633.
72	Nunomura S	皮膚科	Treatment of murine mast cells with IgE $\kappa$ and protein L enhances apoptotic cell death induced by IL-3 withdrawal.	Biochem Biophys Res Commun. 2015; 456(2): 700-705.
73	Kimura K	皮膚科	Dermatofibrosarcoma protuberans on the chest with a variety of clinical features masquerading as a keloid: is the disease really protuberant?	Ann Dermatol 2014; 26(5): 643-645.
74	Hayama K	皮膚科	Effectiveness of a heparinoid-containing moisturiser to treat senile xerosis.	Australas J Dermatol. 2015; 56(1): 36-39.
75	Nunomura S	皮膚科	FcR $\gamma$ promotes contact hypersensitivity to oxazolone without affecting the contact sensitisation process in B6 mice.	Exp Dermatol. 2015; 24(3): 204-208.
76	Izaki S	皮膚科	A Case of Linear IgA/IgG Bullous Dermatitis with Anti-laminin-332 Autoantibodies.	Acta Derm Venereol 2015; 95(3): 359-60.
77	木下 浩作	救命救急センター	Delayed augmentation effect of cytokine production after hyperthermia stimuli.	Molecular Biology 48: 371-376, 2014.
78	小豆畑 丈夫	救命救急センター	Time from admission to initiation of surgery for source control is a critical determinant of survival in patients with gastrointestinal perforation with associated septic shock.	Crit Care. 2; 18(3): R87, 2014.
79	木下 浩作	救命救急センター	Possibility of predicting neurological outcome using regional cerebral oxygen saturation (rSO2) after cardiac arrest. Resuscitation.	2014 Sep; 85(9): e133.
80	櫻井 淳	救命救急センター	A retrospective quality assessment of the 7119 call triage system in Tokyo - telephone triage for non-ambulance cases.	Telemedicine and Telecare. 20(5): 233-238, 2014
81	木下 浩作	救命救急センター	Relationships between pre-hospital characteristics and outcome in victims of foreign body airway obstruction during meals.	Resuscitation 2014, 88c: 63-67.
82	Naoko Sasaki	循環器内科	Effects of Intravenous Amiodarone and Ibutilide on Action Potential Duration and Atrial Conduction Kinetics in Patients With Persistent Atrial Fibrillation.	International Heart Journal: 55, 244-248, 2014
83	Tadateru Takayama	循環器内科	Remodeling pattern is related to the degree of coronary plaque regression induced by pitavastatin: a sub-analysis of the TOGETHAR trial with intravascular ultrasound and coronary angiography.	Heart and Vessels:30, 169-176, 2014

84	Shunichi Yoda	循環器内科	Usefulness of automated assessment of nuclear cardiology for prediction of major cardiac events in Japanese patients with known or suspected coronary artery disease: Comparison with conventional visual assessment in a large-scale prognostic study.	Journal of Cardiology:64, 395-400, 2014
85	Naoko Sasaki	循環器内科	Increased levels of inflammatory and extracellular matrix turnover biomarkers persist despite reverse atrial structural remodeling during the first year after atrial fibrillation ablation	J Interventional Cardiac Electrophysiology:39, 241-249,2014
86	Yasuo Okumura	循環器内科	The effects of standard electrical PV isolation vs. "pace and ablate" on ATP-provoked PV reconnections	J Interventional Cardiac Electrophysiology:40, 39-45, 2014
87	Takafumi Hiro	循環器内科	Rationale and Design of a Randomized Clinical Study to Investigate the Effect of Ezetimibe, a Cholesterol Absorption Inhibitor, on the Regression of Intracoronary Plaque Evaluated by Non-Obstructive Angioscopy and Ultrasound: The ZIPANGU Study.	Journal of cardiology:64, 501-507, 2014
88	Takafumi Hiro	循環器内科	Three-dimensional image reconstruction of histopathological structure of atherosclerotic plaque using a novel technique with film tomography.	Journal of the American College of Cardiology:Cardiovascular Imaging:7, 1283-1285, 2014
89	Mitsumasa Sudo	循環器内科	Multi-modality visualization with three-dimensional reconstruction of neointimal plaque rupture after bare metal stent implantation.	Journal of the American College of Cardiology:Cardiovascular Intervention: 10, e163-165, 2014
90	Kenji Kawauchi	循環器内科	Association of n-3 polyunsaturated fatty acids with solublethrombomodulin as a marker of endothelial damage:A cross-sectional pilot study.	Journal of Cardiology:64, 312-317, 2014
91	Toshiko Nakai	循環器内科	Current status of atrial pacing algorithms for the prevention of atrial fibrillation: Should algorithms be used?	Journal of Arrhythmia :0, 77-81, 2014
92	Kazumasa Sonoda	循環器内科	Monophasic actionpotentialdurationalternansafterabrupt shorteningofthecardiaccycleinhumans	JAm Coll Cardiol Intv: 7,e163-165, 2014
93	Takafumi Hiro	循環器内科	Intravascular molecular imaging for atherosclerosis: a fledgling but realistic world with lights and ultrasounds	Intravascular molecular imaging for atherosclerosis: a fledgling but realistic world with lights and ultrasounds:78, 1574-576, 2014
94	Sonoda Kazumasa	循環器内科	Monophasic action potential duration alternans after abrupt shortening of the cardiac cycle in humans.	J of Arrhythmia:30, 204-207, 2014
95	Naoko Sasaki	循環器内科	Shortening of intraventricular conduction time with rapid ventricular pacing.	Journal of Arrhythmia:30, 372-375, 2014
96	Hiroaki Mano	循環器内科	Changes over time in echocardiographic variables and atrial electromechanical intervals after catheter ablation for atrial fibrillation.	Journal of Arrhythmia:30, 456-472, 2014
97	Kimie Ohkubo	循環器内科	Analysis of the spatial and transmural dispersion of repolarization and late potentials using signal-averaged vector-projected 187-channel high-resolution electrocardiogram in patients with early repolarization pattern.	Journal of Arrhythmia:30, 446-452, 2014
98	Kimie Ohkubo	循環器内科	Spatial and transmural repolarization and dispersion of repolarization and late potentials evaluated using signal-averages vector-projectd 187-channel high-resolution electrocardiogram in Brugada syndrome.	Journal of Arrhythmia:30, 433-438, 2014
99	Sonoda Kazumasa	循環器内科	Tissue velocity imaginb-based atrial fibrillatory cycle length and wall motion for predicting atrial structural remodeling in patients undergoing catheter ablation	Circulation Journal:78, 1619-1627
100	Naoko Sasaki	循環器内科	Transthoracic echocardiographic backscatter-based assessment of left atrial remodeling involving left atrial and left ventricular fibrosis in patients with atrial fibrillation	Int J Cardiol:176, 1619-1627, 2014
101	Naoko Sasaki	循環器内科	Effects of intravenous amiodarone and ibutilide on action potential duration and atrial conduction kinetics in patients with persistent atrial fibrillation.	International Heart Journal : 55, 244-248, 2014
102	Uekusa S	小児外科	Nr4a3, a possible oncogenic factor for neuroblastoma associated with CpG methylation within the third exon.	Int J Oncol. 44: 5,1669-1677,2014
103	Kobayashi K	脳神経外科	Multitarget, dual-electrode deep brain stimulation of the thalamus and subthalamic area for treatment of Holmes' tremor.	J Neurosurg;120(5):1025-32.
104	Yamamoto T	脳神経外科	Instruments for spinal cord stimulation.	Masui;63(7):775-82.
105	Fukaya C	脳神経外科	Systematic review of complications for proper informed consent(13)stereotactic and functional neurosurgery.	No Shinkei Geka;42(8):751-68.
106	Shigeharu Hosono	小児科	Residual blood volume in the umbilical cord of extremely premature infants.	Pediatr Int. 2015;57(1):68-71.
107	Shigeharu Hosono	小児科	Survey of delivery room resuscitation practices at tertiary perinatal centers in Japan.	Pediatr Int. 2015 ;57(2):258-62
108	Shigeharu Hosono	小児科	One-time umbilical cord milking after cord cutting has same effectiveness as multiple-time umbilical cord milking in infants born at <29 weeks of gestation: a retrospective study.	J Perinatol. 2015 ;35(8):590-4
109	Yagasaki Hiroshi	小児科	Immunosuppressive therapy with horse anti-thymocyte globulin and cyclosporine as treatment for fulminant aplastic anemia in children.	Ann Hematol. 2014 May;93(5):747-52.
110	Yagasaki Hiroshi	小児科	Nine-year follow-up in a child with chromosomal integration of human herpesvirus 6 transmitted from an unrelated donor through the Japan Marrow Donor Program.	Transpl Infect Dis. 2015 Feb;17(1):160-1.
111	Chishima F	産婦人科	Successful pregnancy in a case of bladder and ovary endometriosis following cvctoscopy-assisted laparoscopic resection.	J Obstet Gynaecol Res;40(6):1803-6,2014
112	Maebayashi A	産婦人科	Expression of PIGF,sFit-1,metal-responsive transcription factor-1,heme oxygenase 1 and hypoxia inducible factor-1 α mRNAs in pre-eclampsia placenta and the effect of pre-eclampsia sera on their expression of choriocarcinoma cells.	J Obstet Gynaecol Res.;40(10):2095-103,2014

113	Kobayashi Y	産婦人科	Autoantibodies isolated from patients with preeclampsia induce soluble production from trophoblast cells via interactions with angiotensin II type 1 receptor.	Am J Reprod Immunol;73(4):285-91,2015
-----	-------------	------	--	---------------------------------------

計113件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	加藤 有紀	整形外科	解剖学的二重束前十字靭帯再建術における経ポータル法にて作成した大腿骨孔長の検討	JOSKAS 39(1):164-165, 2014
2	上井 浩	整形外科	腰椎変性後彎症に対する固定範囲と治療成績	関節外科 33(5):528-533, 2014
3	上井 浩	整形外科	脊椎破裂骨折に対する経皮的椎弓根スクリューにより多椎間後方固定術	日本脊髄障害医学会誌 27(1):102-103, 2014
4	徳橋 泰明	整形外科	転移性脊椎腫瘍に対する手術的ry歩の最前線	脊椎脊髄ジャーナル 27(4):383-389, 2014
5	徳橋 泰明	整形外科	痛みの画像検査ならびに誘発電位 単純X線	日本医師会雑誌 143(3):S100-101,2014
6	上井 浩	整形外科	胸腰椎外傷に対する低侵襲手術 ダメージコントロール脊椎手術	整形外科最小侵襲手術ジャーナル 72:29-35, 2014
7	徳橋 泰明	整形外科	脊椎疾患におけるレッドフラグ	ペインクリニック 35(10):1365-1373, 2014
8	吉田 圭	眼科	カードラン点眼で誘導されるマウス結膜の病態生理学的変化の検討	あたらしい眼科 31(11):1667-1673, 2014
9	忍田 太紀	眼科	レーザーフレアフォトメーター(FM-700)の特性:FM500との比較	眼科 56(4):523-527, 2014
10	忍田 太紀	眼科	白内障・眼内レンズ挿入術後患者に対する異なる光学デザインの累進屈折力眼鏡の装着比較試験	眼科 56(7):891-896, 2014
11	吉田 圭	眼科	結膜上皮細胞におけるdectin-1およびBAFF発現の検討	日眼会誌 118(4):368-377, 2014
12	原田 奈月子	眼科	春季からたにおけるタクロリムス点眼液治療の臨床経過の検討	日眼会誌 118(4):378-384, 2014
13	庄司 純	眼科	アトピー性角結膜炎マウスモデルを用いた結膜組織中CCL20/MP-3α mRNAの検討	日眼会誌 16:53, 2014
14	中山 智祥	臨床検査医学科	ハプロタイプを用いた関連解析の効用	日本臨床検査自動化学会誌. 39(2):157-165, 2014
15	中山 智祥	臨床検査医学科	遺伝子医療の現状とゲノム医療の近未来、遺伝子医療・ゲノム医療を支える社会基盤、人材養成4: ジェネティックエキスパート	週刊医学のあゆみ 第1土曜特集号、医歯薬出版。250(5):453-455, 2014
16	中山 智祥	臨床検査医学科	認定制度ジェネティックエキスパートの立ち上げ	臨床病理レビュー特集第153号コンパニオン診断の進展2014-2015—個別化医療を進めるために— 95-98, 2014
17	中山 智祥	臨床検査医学科	ジェネティックエキスパート認定制度—遺伝子診療への貢献を目指して—	Medical Technology 43(3), 220-222, 2015
18	中山 智祥	臨床検査医学科	遺伝子診断の現状と未来「分析の質の担保」	総合健診42(3):396-402, 2015
19	中山 智祥	臨床検査医学科	遺伝子・DNA利用の製品研究開発における規制・倫理対応と解析、操作技術のトラブル対策7章 各疾患における遺伝子治療、遺伝子診断の現状と今後有望な開発ターゲットの考察、第1節 遺伝カウンセリング、遺伝学的検査現状と今後の課題	遺伝子治療診断の最先端技術と新しい医薬品・診断薬の開発。技術情報協会 pp.291-299, 2014
20	中山 智祥	臨床検査医学科	遺伝子関連検査・遺伝子診断とカウンセリングの実情・課題、4 遺伝子関連検査技術の標準化と普及への取り組み事例。	診断薬/装置の開発と薬事・販売戦略。技術情報協会 pp. 315-326, 2015
21	宮下 徹夫	臨床検査部	遠沈後の赤血球層を試料とするHbA1c測定法における溶血の影響	日本臨床検査自動化学会誌 39(3):328-334,2014
22	前田 英明	血管外科	血管外科領域における頸動脈超音波検査の活用と治療法の選択	INNERVISION, 29(5):77-79, 2014
23	前田 英明	血管外科	腹部大動脈分枝に対する血行再建	手術, 68(10):1267-1270, 2014
24	前田 英明	血管外科	静脈血栓塞栓症・下肢動脈瘤 第1章 静脈血栓塞栓症 予防2. 下大静脈filterの適応、安全性と遠隔成績	最新医学・別冊 新しい治療のABC, 86:60-66, 2014

25	前田 英明	血管外科	内視鏡下椎間板切除時の前方大血管損傷に対する処置	整形外科Surgical Technique, 5(3):288-292, 2015
26	内山 真	精神神経科	ICSD-3とDSM-5	睡眠医療;9(2), 195-200
27	内山 真	精神神経科	性と気分障害、不安障害、睡眠障害	最新女性心身医学
28	内山 真	精神神経科	ベルゾムラ(スボレキサント)	診断と治療
29	内山 真	精神神経科	メラトニン受容体アゴニスト	日本臨牀
30	横瀬 宏美	精神神経科	女子大学生における月経前不快気分障害の有病率と関連要因	女性心身医学;19(3), 310-321
31	斎藤 かおり	精神神経科	妊娠中期に発症した重症ストレスレグス症候群の1例	東京精神医学会誌
32	鈴木 正泰	精神神経科	時間生物学的治療	精神科治療学
33	鈴木 清澄	総合科(内科)	健常成人に皮膚軟部組織感染症で発症した莢膜型6Cによる侵襲性肺炎球菌感染症の1例	感染症学雑誌88巻6号 Page849-854(2014)
34	伊崎 聡志	皮膚科	顆粒球除去療法を施行した難治性壊疽性膿皮症の1例.	皮膚科の臨床 2014; 56(4): 556-557.
35	梅田 さやか	皮膚科	皮膚慢性移植片対宿主病(GVHD)に対するナローバンドUVB療法.	臨床皮膚科2014;68(5)105-109.
36	伊崎 聡志	皮膚科	肉芽腫性眼瞼炎の1例.	皮膚科の臨床 2014; 56(5): 792-793.
37	藤田 英樹	皮膚科	段差の大きな創傷.	isual Dermatology 2014; 13(5): 520-521.
38	高橋 昌五	皮膚科	小児に発症したhypopigmented mycosis fungoidesの1例.	日本小児皮膚科学会雑誌 2015; 34(2): 125-130.
39	木下 浩作	救命救急センター	救急医療の現状と気道異物による窒息への対応	耳鼻咽喉科展望 57; 2; 8-14, 2014
40	小豆畑 丈夫	救命救急センター	消化管穿孔におけるDIC (特集 消化器外科領域における DIC)	Thrombosis Medicine 4(2):13-19,2014
41	堀 智志	救命救急センター	【救急処置のトラブルとリカバー】 緊急ペーシング(経皮・経静脈)(解説/特集)	救急医学 38 (6):640-645, 2014.
42	小豆畑 丈夫	救命救急センター	敗血症の感染源コントロール	救急医学 39 (2):212-218, 2015.
43	小豆畑 丈夫	救命救急センター	急性腹症診療ガイドライン2015	医学書院 2015.03.01 第1版第1
44	千島 史尚	産婦人科	不育症 抗リン脂質交代症候群/凝固因子の欠乏または低下	臨床産婦人科産科
45	松野 孝幸	産婦人科	傍腫瘍性神経症候群を呈した腹膜癌の1例	東京産科婦人科学会誌 64(1), 70-74

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 日本大学医学部附属板橋病院における【臨床研究等の実施】に係る標準業務手順書 ・ 日本大学医学部附属板橋病院における【臨床研究等の審査】に係る標準業務手順書	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 11 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 ・ 委員会の任務，研究等の実施に係る手続，委員会における審議事項，守秘義務，情報公開	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容 ・ 「当院における利益相反マネジメントについて」 ・ 「医療系大学におけるCOIとそのマネジメント」 ・ 「人を対象とする医学研究に関する倫理指針施行に伴う申請書類等の変更について」 ・ 「【改定】人を対象とする医学研究に関する倫理指針の要点」	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

高度医療に対する研修を実行するため、医学部の学系・分野と協力しながら専門医取得のための後期研修プログラムを各診療科で作成している。内科，外科については，サブスペシャリティ領域ごとに専門医を取得できるように，いくつかのプログラムを選択できるようなシステムを構築している。内科については，初期臨床研修2年終了後，3年目に内科共通プログラムを1年行い，その後，それぞれの専門医にあったプログラムを選択するようにしている。外科も同様に，外科専門医を取得後，サブスペシャリティ領域の専門医を取得できるようなローテートを構築している。

2 研修の実績

研修医の人数	232.1人
--------	--------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
矢内 充	内科	部長	30年	
増田 英樹	外科	部長	38年	
橋本 修	呼吸器内科	部長	38年	
武井 正美	血液内科	部長	34年	
上野 高浩	腎臓・内分泌内科	部長	28年	
森山 光彦	消化器・肝臓内科	部長	34年	
石原 寿光	糖尿病・代謝内科	部長	27年	
亀井 聡	神経内科	部長	35年	
平山 篤志	循環器内科	部長	38年	
内山 真	精神科	部長	35年	
高橋 昌里	小児内科，新生児内科	部長	38年	
照井 正	皮膚科	部長	33年	
高山 忠利	消化器外科	部長	35年	
塩野 元美	心臓外科	部長	36年	
前田 英明	血管外科	部長	32年	
村松 高	呼吸器外科	部長	32年	
越永 従道	小児外科	部長	32年	
天野 定雄	乳腺・内分泌外科	部長	38年	
仲沢 弘明	形成外科	部長	32年	
吉野 篤緒	脳神経外科	部長	29年	
徳橋 泰明	整形外科	部長	35年	
山本 樹生	産婦人科	部長	38年	
高橋 悟	泌尿器科	部長	30年	
山崎 芳夫	眼科	部長	35年	
大島 猛史	耳鼻咽喉科	部長	29年	
阿部 修	放射線科	部長	25年	
鈴木 孝治	麻酔科	部長	26年	
杉谷 雅彦	病理診断科	部長	35年	
木下 浩作	救急科	部長	28年	
吉田 美昭	歯科口腔外科	部長	36年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容<ul style="list-style-type: none"><li>①MRIの安全-新規導入3テスラMRI-, インスリンの種類と基礎知識, 術後呼吸抑制について</li><li>②麻薬の取り扱い・持参薬に関して</li></ul></li><li>・研修の期間・実施回数 各会4日, 1回</li><li>・研修の参加人数 ①1,666名, ②1,682名</li></ul>
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容<ul style="list-style-type: none"><li>①個人情報保護について</li><li>②RRSの現状報告</li></ul></li><li>・研修の期間・実施回数 各会4日, 1回</li><li>・研修の参加人数 ①1,666名, ②1,682名</li></ul>
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none"><li>・研修の主な内容</li><li>・研修の期間・実施回数</li><li>・研修の参加人数</li></ul>

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 平山 篤志	
管理担当者氏名	事務長 平野 雄二 庶務課長 金澤 徳智 医事課長 小峰 勝 病歴課長 高坂 進 医学部庶務課長 小林 勝幸 医薬品安全管理責任者 吉田 善一, 医療機器安全管理責任者 遠藤 裕二	

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		庶務課 病歴課	日別, 年度別, 種類別に管理している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医学部庶務課 病院庶務課	
	高度の医療の提供の実績	医事課 当該診療科	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課 当該診療科	
	高度の医療の研修の実績	当該診療科	
	閲覧実績	病歴課, 庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課, 庶務課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課, 庶務課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十体の一確項保各の号状及び第九條の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室 庶務課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室 庶務課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室 庶務課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室 庶務課	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室 庶務課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染予防対策室 庶務課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室 庶務課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室 庶務課 医事課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染予防対策室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	感染予防対策室 庶務課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染予防対策室
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染予防対策室
	各号及び	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部 庶務課
	第九条	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	の二十三	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	中央放射線部 臨床工学技士室 庶務課
	体制の確保の状況	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	中央放射線部 臨床工学技士室
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	中央放射線部 臨床工学技士室	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	中央放射線部 臨床工学技士室	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	事務長 平野 雄二	
閲覧担当者氏名	庶務課長 金澤 徳智, 会計課長 大久保 貞治 医事課長 小峰 勝, 病歴課長 高坂 進 資材課長 石川 誠, 医学部庶務課長 小林 勝幸	
閲覧の求めに応じる場所	庶務課・会議室	
閲覧の手続の概要 公文書で病院長宛に依頼文書・照会をいただき。その諾否を執行部会が判断する。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	2件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 1件
	地方公共団体	延 1件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>日本大学医学部附属板橋病院は患者の生命の尊厳と安全を確保し、常に高度で先進的な医療を提供する特定機能病院として、安全管理体制の強化を図るため、平成12年3月に医療事故防止マニュアルを作成し、以下の指針及び安全管理体制の確保のための委員会並びに医療事故発生時の対応方法をマニュアル化し整備した。</p> <p>① 医療法の改正に伴い安全管理に関する基本的な考え方等医療安全管理指針を改定（基本理念及び完全管理指針）（平成12年3月制定，平成27年8月改訂）</p> <p>② 安全管理体制組織運営</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理室運営規則（平成16年1月制定，平成25年10月改訂）</li><li>・ リスクマネジャーに関する規則（平成16年1月制定，平成22年4月改訂）</li><li>・ 医療安全ワーキンググループ設置規約（平成18年4月制定，平成26年4月改訂）</li><li>・ セフティマネジャーによる事例検討会に関する規約（平成25年3月22日制定）</li></ul> <p>③ 安全管理体制確保のための委員会</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 特別症例検討委員会規則（平成12年5月制定，平成27年6月改訂）</li><li>・ 医療事故対策特別委員会規則（平成12年5月制定，平成17年11月改訂）</li></ul> <p>④ 医療事故発生時の対応方法</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ インシデント・アクシデント・不具合事象（合併症）報告運用規則（平成12年5月制定，平成27年8月改訂）</li><li>・ インシデント・アクシデントレポート不具合事象（合併症）報告フローチャート（平成12年5月制定，平成27年8月改訂）</li><li>・ 重大医療事故報告ルートフローチャート（平成12年8月制定，平成19年9月改訂）</li></ul> <p>⑤ 患者相談窓口運用要項（平成15年10月制定，平成25年12月改定）</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 患者相談窓口フローチャート</li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>「医療安全管理委員会」は医療安全管理室長を委員長として、専任医療安全管理者・診療部門・看護部門・中央部門（薬剤部，中央放射線部，臨床検査部）・事務部門から選出された委員（セフティマネジャー）により構成されている。定例で月 1 回の会議を開催し、当院における医療に係る安全管理の基本を決定し、医療事故防止対策の検討及び医療安全の推進を図っている。また、年2回の医療安全講習会の企画・運営を行っている。</p> <p>下部組織として各部門の主任以上の者にセフティマネジャーを任命し、各部署において医療安全対策を推進している。</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医療安全管理指針に基づき、安全管理体制と医療事故を未然に防ぐために以下の研修を実施。</p> <p>① 平成26年6月3日（火），4日（水），12日（木），13日（金） ※第1回医療安全講習会 「平成25年度医療安全報告」他</p> <p>② 平成26年11月5日（水），6日（木），7日（金），11日（月） ※第2回医療安全講習会 「転倒発生状況について」他</p>	

<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機関内における事故報告等の整備 ( <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インシデント・アクシデントレポートにより、速やかに報告を行う体制を整備している。</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> <li>① インシデント・アクシデントレポートによる速やかな報告の推進。平成18年度からインシデントレポートシステムを導入しオンライン化を図った。</li> <li>② 提出されたインシデントレポート，外部のレポート，現場からの問題提起，インターネットやメディファックスなどから事例を収集・把握し，情報を得ている。また，上記情報を踏まえて，医療安全管理室は報告された内容を事例によっては当事者立会いによる現場での聞き取りや状況確認を行い，レベルの高い事故事例についてはセーフティ・マネジャー事例検討会に付託し，詳細な原因究明分析を行い改善策の検討を行っている。</li> <li>③ 24時間いつでも提出可能にするために，医療安全管理室にポストを設置。</li> <li>④ 医療安全管理室室員の連携（情報交換）をとるために，週1回の連絡会を開催し，情報の共有化を図り，分析・予防対策等の検討を行っている。</li> <li>⑤ 専任医療安全管理者が病棟ラウンドを行い，報告内容の確認及びリスクマネジャーとの連携をとっている。</li> <li>⑥ 「ヒヤリ・ハット通信」「医療安全注意報」等の発行時には，回覧で読んだことを証明してもらうため，確認票も添付し，そこにサイン（押捺）させ，医療安全管理室で確認票を収集・管理している。</li> <li>⑦ 可及的速やかに検討が必要な事例が発生した場合，当該部署の医師や看護師ならびにそれに関連する部署の者も集めて「特別症例検討委員会」を開催し，今後再発防止策を検討・実施している。</li> </ol> </li> </ul> </li> </ul>	
<p>⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> ( 5 名 ) ・ 無</p>
<p>⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> ( 6 名 ) ・ 無</p>
<p>⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> ・ 無</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 所属職員： 専任 ( 2 ) 名 兼任 ( 12 ) 名</li> <li>・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全管理室を設置し，医療安全管理委員会において検討された方針に基づき，組織横断的観点から安全管理対策を企画・立案・実施及び改善を図る。</li> </ul> </li> </ul>	
<p>⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> ・ 無</p>

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指針の主な内容：             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基本理念，基本方針，専従者の配置，感染防止対策委員会の設置，職員の研修，感染症発生時の報告，感染症発生時の対策，閲覧について，連絡先，その他</li> </ul> </li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動の主な内容：             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内の感染症情報の共有，針刺し切創・皮膚粘膜曝露件数の共有，抗MRSA薬使用状況及び抗菌薬使用状況の共有，菌検出状況薬剤感受性統計，感染対策講習会の準備（企画）と開催，参加状況の把握，感染対策マニュアルの改訂，医療安全ポケットマニュアル第9版の作成，標準予防策の手指衛生行動の評価：手洗いラウンド，ワクチン接種について</li> </ul> </li> </ul>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 7 回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：</li> </ul>	
<b>講習会 1</b> 2014 年 5/26 (月) ①16:30～ ②17:30～ 6/05 (木) 17:30～	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 手洗いはいつやるか？「今でしょ！」 ～ いつも心に感染防止対策を ～</li> <li>・ 感染防止対策行動目標</li> <li>・ 感染経路別対策 ～ 院内の決まりごと ～</li> <li>・ 平成 25 年度 針刺し切創事故発生状況と予防の為に安全器材</li> <li>・ 抗菌薬使用届出方法の変更と使用量・内訳など</li> <li>◆ 感染防止対策クイズ</li> </ul>
<b>講習会 2</b> 7/15 (火) 17:30～ 8/08 (金) 17:00～	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 感染対策はやっぱり「お・も・て・な・し」              ～ おい、もってて（手）を洗え！な（泣）いてもし（知）らんぞ ～</li> <li>・ 痰検体の採り方「培養検査に適した痰とは？」</li> <li>・ 当院における MRSA 検出状況と最近の話題</li> <li>・ 環境整備</li> <li>◆ 感染防止対策クイズ</li> </ul>
<b>講習会 3</b> 9/29 (月) 16:30～ 10/10 (金) 17:30～	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 「じぇじぇじぇ」な感染対策 ～ こんな感染防止対策ってあり？ ～</li> <li>・ 結核患者の診断と対応</li> <li>・ 針刺し切創事故 注意報</li> <li>・ 感染症情報</li> <li>◆ 感染防止対策クイズ</li> </ul>
<b>講習会 4</b> 11/26 (水) 16:30～ 12/11 (木) 17:30～	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 院内感染が起きたらやり返す「倍返しだ！」～ 一段上の感染防止対策を ～</li> <li>・ 血液培養のすすめ</li> <li>・ 冬が来る前にもう一度</li> <li>◆ 感染防止対策クイズ</li> </ul>
<b>講演会 5</b> 2014 年 1/19 (月) 17:30～	特別講演（院外講師）：「患者と医療者を守るための手指衛生」 順天堂大学大学院医学研究科感染制御科学 教授 順天堂大学医学部附属順天堂医院 感染対策室長 堀 賢 先生
DVD 補講 2/26・3/4・3/6・3/7 9 回	DVD による講習会 DVD 貸出 医局で講習会参加 ビデオ講習会の参加 DVD による補講
新入職時の研修 4/4 (金) 14:30-16:10 4/7 (月) 14:00-17:20	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆ 感染予防対策の重要性</li> <li>◆ 感染対策指針</li> <li>◆ 標準予防対策・経路別予防対策について</li> <li>◆ 感染症例診断の基本</li> <li>◆ 標準予防の実際：演習</li> </ul>

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (  有 ・ 無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：

- ・ 感染症発生時、細菌検査室から主治医へ、と同時に隣室の感染予防対策室の専従感染管理者へ報告があり、現場へ直ちにラウンドし情報の共有・感染対策の強化について検討と確認を行っている。感染症法による感染症の届出は電子カルテより様式を出力でき、速やかな報告書の提出が可能となった。
- ・ 標準予防策と経路別感染予防の遵守の状況を毎週ラウンドで検証している。
- ・ 「当病院では感染防止対策として手指衛生に力を入れています」と宣言したポスターを作成し掲示した。
- ・ 手指衛生月間（ポスター掲示）を設け、ICC手洗い評価ラウンドを年2回実施。
- ・ ICLN活動として、自部署のスタッフのブラックライトを用いて手指衛生評価の実施。（チェックリストによる手指衛生手順・タイミングの評価）
- ・ 病棟ICLNの活動として各部署の手指衛生行動の評価：手指消毒剤の使用量の測定。
- ・ 院内における手指消毒剤の払い出し量のサーベイランスの実施・部署へフィードバック、少しずつであるが使用量の増加となった。
- ・ 6部署の病棟で手指衛生の直接観察法を実施し5つのタイミングの何が不十分であるかを分析し改善へと繋げた。
- ・ CAUTIサーベイランス（神経内科、血液・膠原病内科、消化器肝臓内科、泌尿器科、消化器肝臓外科、乳腺外科、脳神経外科の7部署）、ICUにおけるVAPサーベイランス実施。
- ・ 感染防止対策講習会の内容の充実、参加率向上への取り組みに努め、全職種100%参加を達成した。
- ・ 医師、看護師、薬剤師、検査技師による抗MRSA適正使用検討会・ラウンドを週2回実施し耐性菌感染症対策に努めた。
- ・ 順次、病棟トイレの改修工事（ゾーニングによる環境整備）、手洗い場の水道の自動化移行した。
- ・ エボラ出血熱関連の対応として、「患者受入のフローチャートの作成」・个人防护具の備蓄と着脱の教育を行った。
- ・ N95マスクフィットテストの実施（関係部署の職員150名）。マスク装着の教育の実施。

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	①・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： ・ 「インスリン製剤の種類と基礎知識」について ・ 「麻薬の取り扱い・持参薬」について	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 ( ①・無 ) ・ 業務の主な内容： ・ 薬剤管理委員会の委員2～3名で定期的に病棟や外来をラウンドし、手順書にそったチェックを行い、必要であれば改善点などを指摘する。また、病棟薬剤師は、月1回程度で病棟医薬品の管理関係をチェックし、いずれも報告書を作成し、医薬品安全管責任者から医療安全管理室へ報告をあげている。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( ①・無 ) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 最近では、「重要な注意を要する注射薬一覧」，「ハイリスク薬一覧」など、各部署への情報提供を紙媒体でお知らせし、内容を確認したということで情報確認票へ印（サイン）をし医療安全管理室へ提出してもらい周知している。タイミングによっては医療安全講習会において情報提供も行っている。 その他、病棟薬剤師から医師・看護師のカンファレンス時に説明を行う。	

(様式第6)

### 医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
<ul style="list-style-type: none"><li>研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器の有効性・安全性に関する事項</li><li>医療機器の使用法に関する事項</li><li>医療機器の保守点検に関する事項</li><li>医療機器の不具合が発生した場合の対応に関する事項</li><li>医療機器の使用に関して特に法令上遵守すべき事項</li><li>新しい医療機器の導入時の研修</li><li>医療機器の使用方法に関わる放射線治療のリスクマネジメント</li><li>医療機器の非常時の処置方法</li></ul></li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>計画の策定 (有・無)</li><li>保守点検の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>保守点検の計画・実施表作成</li><li>定期点検 (各医療機器のマニュアルに沿った期間で行う)</li><li>定期点検計画の策定を行い、3ヵ月ごとに見直し、委員会にて承認を得ている</li><li>日常点検 (始業点検, 使用後, 修理後, 使用中等) の実施及び記録</li><li>高エネルギー放射線発生装置: 定期点検, 年4回 メーカーに依頼</li><li>診療用放射線照射装置 (R A L S装置): 定期点検, 年2回 メーカーに依頼</li><li>各機器のマニュアルに沿った期間で定期点検を行う (人工呼吸器, 輸液ポンプ, シリンジポンプ等, 一部の機器は臨床工学技士が行い, その他の機器はメーカーに依頼する)</li></ul></li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</li><li>その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none"><li>PMDAやメーカーからの情報を得ている。</li><li>重要な情報に対しては, 医療安全管理室に情報を提供し医療安全情報として各病棟に配布している。</li><li>メーカーからの安全使用に関する情報通知内容を関係職員に回覧し, 情報の共有化を図っている。また, 安全情報をファイルし, 適宜閲覧可能とする。</li><li>メーカーからの改修・注意事項に則り適宜改修を行っている。</li><li>治療計画装置の安全使用を図るために, 保守契約項目にソフトバージョンアップを含め, 常に最新のソフトを使用している。</li><li>病棟巡視を行い, 病棟で使用中の機器の確認・目視点検・動作確認を行っている。特に人工呼吸器に関しては, 使用の際に臨床工学技士による装着点検を行っている。</li><li>医療安全管理室と連携を取り医療機器安全情報として随時, 機器の取扱いの注意点等をポスター及びチラシ等を発行し, 各病棟に配布している。</li><li>看護師の希望対象者に対して, 医療機器の取扱い等の研修を毎月行っている。また, 全看護師対象に, 人工呼吸器, D C等のワンポイント公衆を随時開催し, 機器の安全使用に必要な知識を伝達している。</li></ul></li></ul>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期</li><li>・ 公益財団法人 日本医療機能評価機構</li><li>・ 平成26年9月26日～28日</li></ul>	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 情報発信の方法、内容等の概要</li><li>・ 医療連携制度登録医療機関及び近隣医療機関に対して最新医療情報や各診療科での診療実績、取り組み状況等を掲載した会報誌を年3回発行して情報発信を行っている。また、定期的に公開講座を開き、区民等に対して情報発信を行っている。</li></ul>	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</li><li>・ 初診救急患者については、初期対応を総合科が行い、専門領域での診療が必要な場合には各診療科と連携を行い対応している。また、治療方針の決定等で、診療科単独での判断が困難な場合には複数診療科でカンファレンスを行い、患者にとって最良な治療方針を検討している。</li></ul>	